



森貫主が揮毫書の贈呈で支援 スーダンのジャパセンセンター開設

アフリカのスーダン共和国で医療を中心にした支援活動をしています日本の特定非営利活動法人ロシナンテスが、同国ハルツーム大学総合図書館にジャパセンセンター「無東西」を開設するにあたり、清水寺の森清範貫主がセンター内に掛ける書の揮毫支援を行い、四月二十六日に贈呈式が行われました。手渡された書軸をその場で掛け鑑賞した同法人の川原尚行理事長は「力強い書に感激した」と喜び、早速スーダンへ旅立ちました。

スーダンは続発する内戦と、二〇一一年七月九日の南スーダン独立による南北国境紛争などで国内の安定が乱れています。ジャパセンセンター「無東西」はそうした中で、日本の文化を紹介し発信するとともに、南北スーダンの平和への強いメッセージを発する場として開設しようという狙いです。設立を担うロシナンテスの川原理事長は二〇〇二年に外務省医務官として在スーダン日本大使館に赴任し、内戦やマラリヤなどの感染症に苦しむ国民を目の当たりにして外務省医務官を辞職。NPO法人ロシナンテスを設立し、無医村での医療活動のほか、安全な水の供給や住民への衛生教育、サッカー教室などを通じて子どもの教育活動など幅広い支援を行っています。さらにハルツーム大学と学術提携も結び、日本との交流を進めるため、図書館に一室にアメリカ、イタリアに続くジャパセンセンター「無東西」を開設する運びになりました。

森貫主の書「無東西」はジャパセンセンターに掲げるためのものです。二〇一一年七月にサッカー教室の子どもたちが来日し清水寺に参詣した縁があり、

森貫主が書揮毫の支援を引き受けました。贈呈式は清水寺迎賓殿で行われ、川原理事長のほか、日本文化を体感することができるジャパセン



川原尚行ロシナンテス理事長（左から2人目）の
ジャパセンセンター「無東西」に書を贈った森貫主（右）

ターにと内装工事を手掛けた杉本工務店の杉本慎治社長が来山して行われました。二人はともにラガーマンで交流があり、今回のジャパセンセンター開設に力を合わせてきました。森貫主から川原理事長に書軸が贈呈されますと、川原理事長らは早速その場で軸を掛け鑑賞しました。尚「無東西」とは、戦争で対立は解決できないが、立ち位置が変われば東も西も無くなるという意味です。森貫主は「禅語に『山中に暦日無し』という言葉ある。曆も所詮人間が作ったものだ。立場の違いも人がつくったもの。乗り越えていってほしい」と励ましました。全紙に書かれた軸を前にして川原理事長は「圧倒的な書の力を感じる。ありがたい」と感激していました。

ジャパセンセンターは六月末に完成しました。